

【配点】 ①・②・③ 各2点×20 その他 各4点×15

1 原因 2 敗北 3 観察 4 芸術 5 散歩

6 暑 7 借 8 えいち 9 このむ 10 しせい

2 アウクキカ

3 イイアイウ

4 D イ・エ イ

(完答・順不同)

4 自分だけが何度も席をゆずりつづけているのは不公平だと思ったから。

(同意可)

5 A としより B 娘

6 ウウ

5 B イ

3 外れる向きに回

4 A かぎ B 巻き戻す C 突起

X 互いの隙間にはめ込
で動かないようにする

(同意可)

① (漢字の書き取り・読み取り)

- 1 「原」も「因」も「も」と・事の起こり」という意味がある。2 「北」はもともとたがいに背を向け合っているふたりの人をかたどった字で、「そむく」「にげる」の意味がある。「背」にも「北」が入っているだろう。「敗北」は、敗れて敵に背を向けてにげることである。3 「観」は「見る」、「察」は「知る」という意味である。4 「術」は「述」などと混同してはならない。「技術」の意味と結びつけよう。5 「散」は「とりとめのない・自由な・ばらばらな」という意味で、そのように歩くから「散歩」である。6 「暑い」は「寒い」の反対、「熱い」は「冷たい」の反対、「厚い」は「薄い」の反対である。7 反対に「かす」は「貸す」と表記する。8 「英」は「すぐれた」という意味。「叡智」とも表記する。9 「好」には他に「す(く)」という訓読みがある。10 「姿」だけでなく「勢」にも「ようす・ありさま」という意味がある。

② (同類語・反対語・慣用句)

- 1 「完全」と「無欠」は同類語であり、「完全無欠」という四字熟語の形でよく使われる。
- 2 「長所」と「短所」は反対語である。エの「美点」は「欠点」の反対語である。
- 3 「右に出る者がいない」で、その人以上にすぐれた人はいないということ。
- 4 「困難であること・苦勞を要すること」の比喩。
- 5 「異口同音」という四字熟語も同類語として知っておこう。

③ (主語・修飾語・呼応)

- 1 だれが「遊んでいる」のか、と考えると「子供たち」である。「校庭では」は主語ではない。「は」を外して「校庭で」だけにすれば、主語でないことは明らかだろう。
- 2 ななが「座っている」のか、と考えると「大仏」である。
- 3 ななが「遺跡である」のか、と考えると「登呂遺跡」である。
- 4 ななが「大きい」のか、と考えると「お城」である。
- 5 「まさか」の後ろには「ないだろう」「まい」などがくる。こういう関係を「呼応」という。

④

- 1 作者(ぼく)が電車にいる場面と、電車を降りたあとの場面とに分かれる。
- 2 「次の駅も/次の駅も」のところに反復法、「身体をこわばらせ——」のところに省略法が使われている。
- 3 問5とも関連するが、この詩は作者が娘の心中に思いを馳せて詠んだものである。主題は一貫して「娘」「やさしい心の持ち主の受難」であり、ここでだけとしよりに同情が向くのはおかしい。

- 4 自分の前にはもうすでに二度もお年寄りが押し出されてきている。二度目の時点ですでにうつつむいて、「またか」というような反応を示していた。三度目の今、「もううんざりだ」「なぜ自分だけ」といった心情が生まれることは想像に難くない。
- 5 やさしい心の持ち主が受難者となるのは、「他人のつらさを自分のつらさのように感じるから」であった。娘は「としより」が立ちつづけるつらさを見て見ぬふりすることができず、作者はそんな娘を題材にしてこの詩を詠んだのである。
- 6 一言でいえば「罪悪感」である。これは「やさしい心の持ち主」だからこそおぼえる心情である。
- 7 詩の焦点は娘なのに、なぜ「夕焼け」なのかについては、さまざまな解釈がある。この問いでは、娘の美しさと夕日の美しさの重ね合わせ、そしてそれにもかかわらず娘は夕焼けを見ることができていないという奇妙な対比を見出している。

⑤

- 1 「かぎ」の特徴を説明している部分と、「一度引っかけたら外れない」しくみを説明している部分とに分かれる。
- 2 段落のはじめに「かぎの特徴は」とはつきり書いてある。
- 3 「前者」と「後者」で、それぞれ二つあるうちの前の方と後ろの方を指す言葉である。「引っかけたら二度と外れないための方法」がこの段落では二つ述べられていた。そのうちの後の方を指している。

- 4 AとCはいずれも空らん前後からすぐに特定できる。Xは、線ファスナーを閉じるとき、スライダーが務歯をどうするのか、と考える必要がある。その内容は後ろから二つ目、三つ目の段落で説明されていたので、この範囲をまとめる要約問題である。

以上